



ゆうひ
夕日はどこにしずむの

にし そら
西の空にしずむ

たいよう あさ ひがし そら で じかん
太陽は、朝、東の空から出ます。時間がたつにつれて、だんだん南の空へ動いていきま
す。しょうご まみなみ そら たいよう たか いちにち うご
す。正午ごろ、真南の空にきたとき、太陽の高さは一日の動きのなかで、いちばん高くなり
ます。

にし そら うご
そのあと、だんだん西の空へ動いていきます。たいよう たか ひく ゆうがた
西の空にしずみます。太陽の高さは、だんだん低くなって、夕方、

ちへいせん すいへいせん
地平線や水平線にかくれる

しゅんぶん ひ しゅうぶん ひ たいよう まひがし まにし りょうじつ さかい
春分の日と秋分の日、太陽は真東からのぼり、真西にしずみます。その両日を境にし
て夏は北により、冬は南によります。

たいよう にし そら たてもの やま はい み
太陽が西の空にしずむときに、建物や山があると、そのかげに入ったあとは、見えなくな
ります。そうすると、もう、「日の入り」になったと思ってしまいがちです。しかし、「日
の入り」は、たいよう にし ちへいせん すいへいせん すこ じかん
太陽が西の地平線や、水平線にかくれるときをいうので、もう少し時間がたっ
てからになります。（監修・国司 真）

